

## 【はじめに】

- ・陥入爪・巻き爪から発生した爪囲炎は、末梢動脈疾患を合併した透析患者に発症すると重症化する恐れがある。
- ・当院では足趾創傷の予防を目的とし、2011年11月からツメフラ治療による介入を開始した。
- ・これまでに38名(54趾)、2020年8月現在は12名(16趾)を治療している。
- ・**ツメフラ治療を行った患者の、治療にかかる期間は平均で6.2±0.5ヵ月である。**
- ・今回、介入が必要だった患者に対して、ツメフラ治療が奏功した2症例について報告する。

## 【ツメフラとは】

形状記憶合金でできた陥入爪・巻き爪の矯正器具。爪先の両端に装着することで爪の矯正を行う。



### メリット

- ・侵襲性が低い
- ・日常生活の制限がない
- ・疼痛緩和に即効性がある

### デメリット

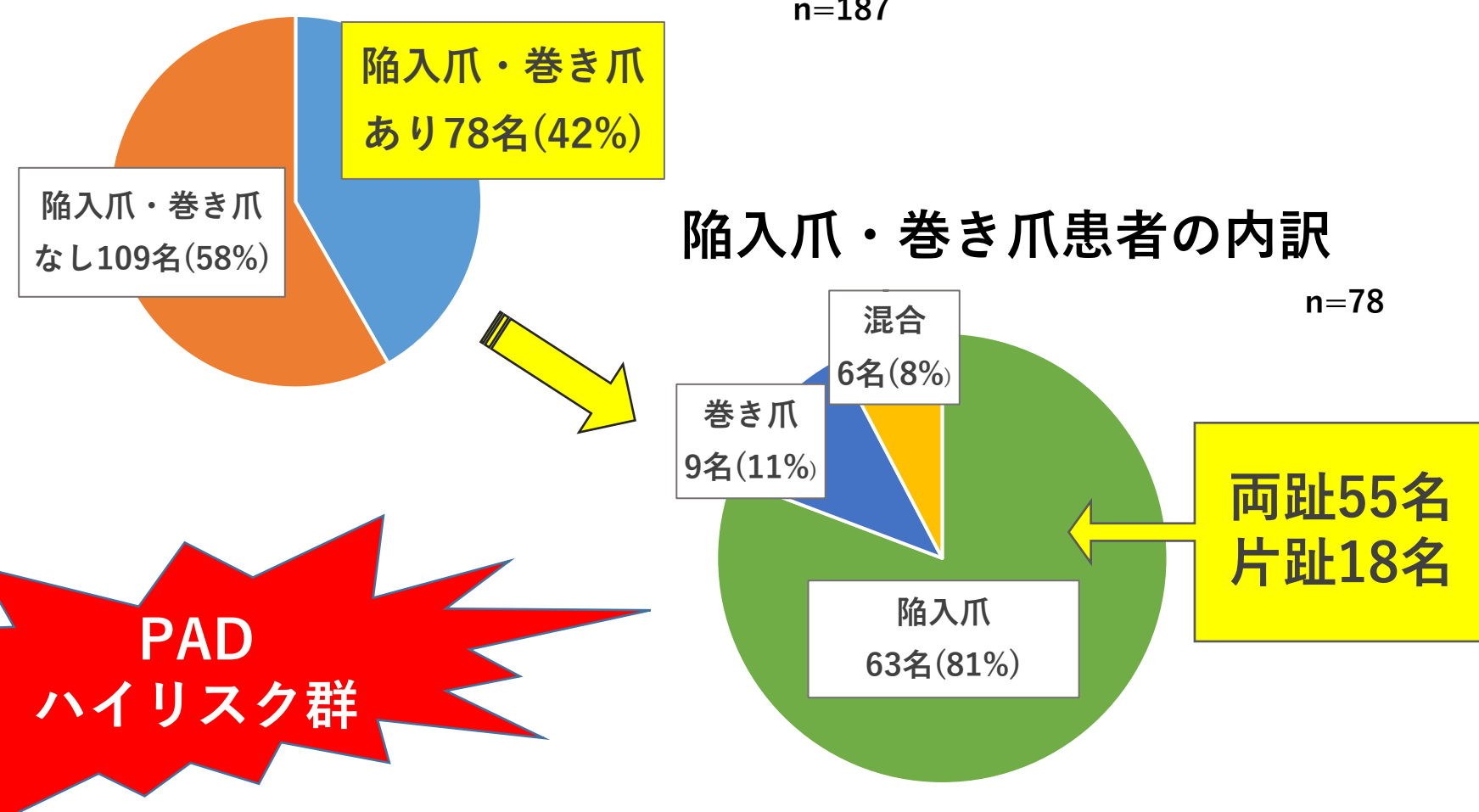
- ・保険適応外なので自由診療となる
- ・治療期間が長期となる(数ヶ月から1年程度)
- ・ツメフラを外した後に再発する例あり

爪の状態に応じてツメフラ治療を行う。装着後に問題がない場合は、1カ月に1回の間隔で医師のツメフラ診察を設定し、経過をみている。

## 【陥入爪・巻き爪患者の概要】

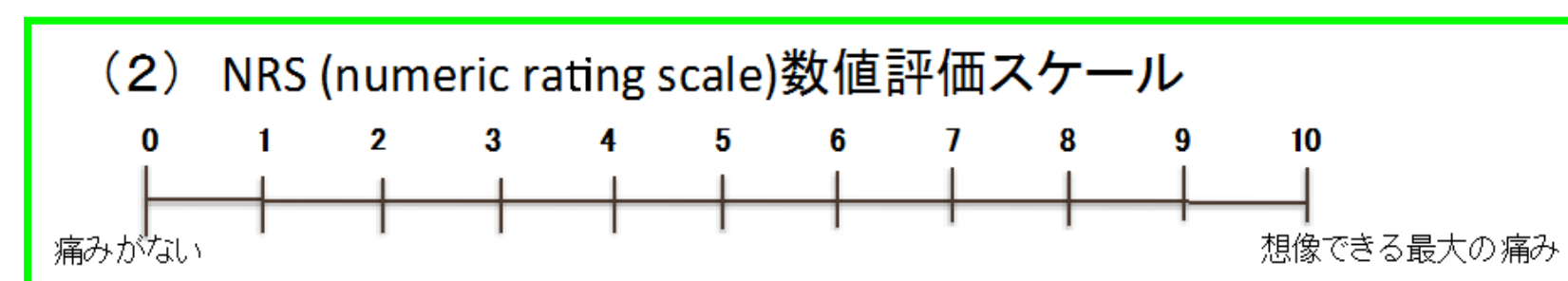
当院透析患者の陥入爪・巻き爪保有率

|           | 全患者(187名)   | 陥入爪・巻き爪患者(78名)   |
|-----------|-------------|------------------|
| 男女比 男     | 116名(62.0%) | 43名(55.0%)       |
| 女         | 71名(38.0%)  | 35名(45.0%)       |
| 糖尿病患者割合   | 76名(40.6%)  | 25名(32.0%)       |
| そのうち70歳以上 | 96名(51.3%)  | <b>9名(12.3%)</b> |
| 平均透析年数    | 9.8±6.5年    | 10.1±9.3年        |



## 【評価方法】

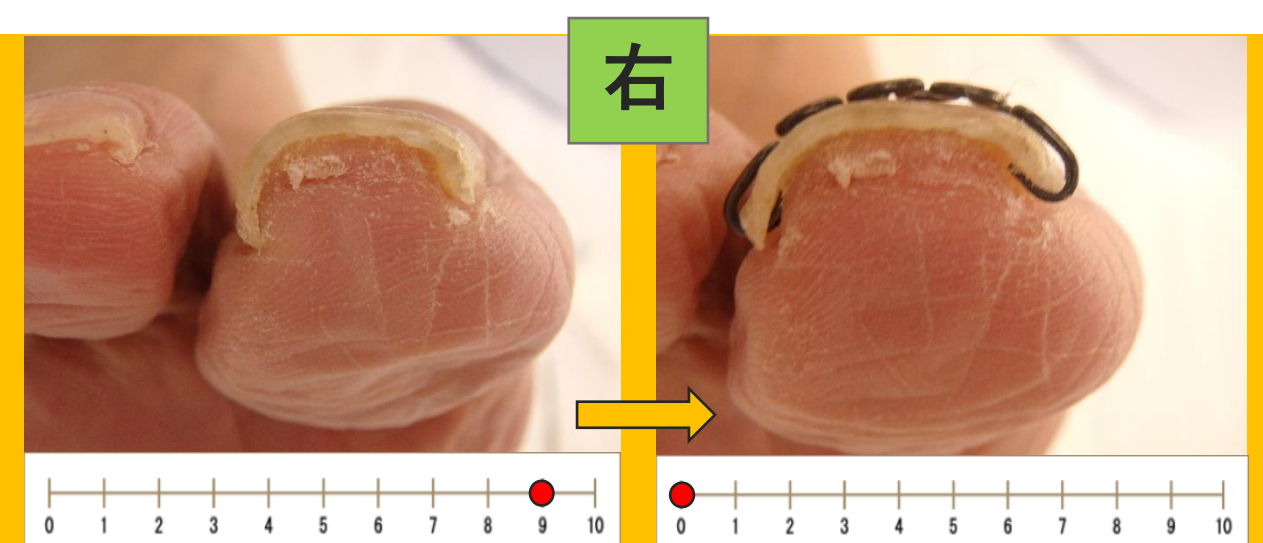
ツメフラ装着前後での爪の状態を観察し、NRS(numeric rating scale)数値評価スケール11段階を指標とした疼痛レベルの変化と生活変化の聞き取り調査を行った。



倫理的配慮：今回報告する2症例の患者について、本発表の説明をし承諾を得た。個人が特定されないよう配慮した。

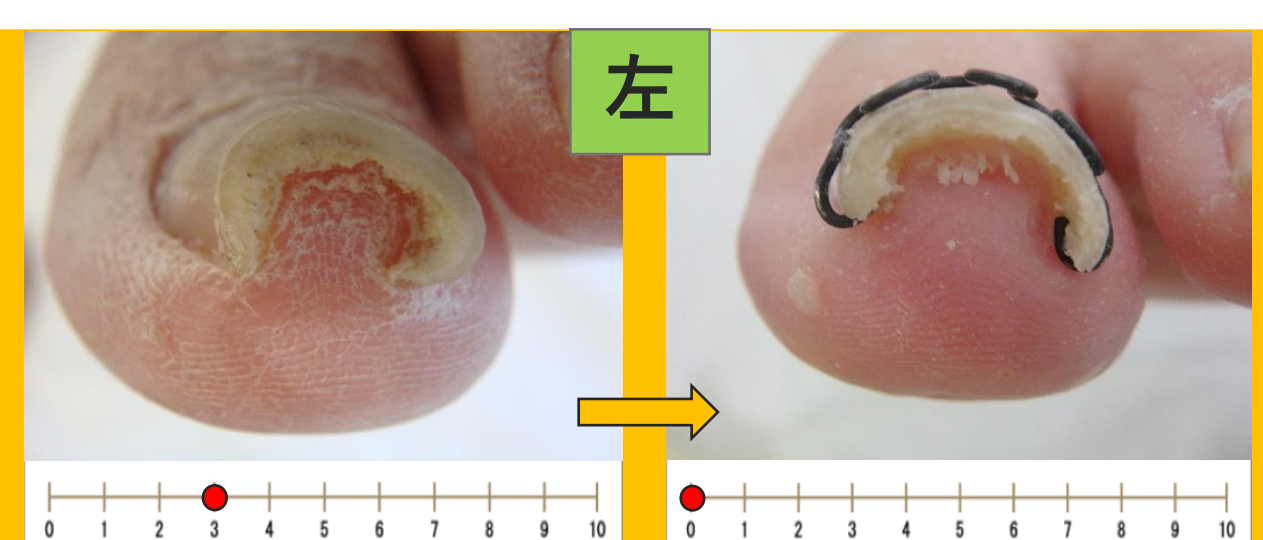
## 【症例1】

80代 男性 両第1趾陥入爪：2020年5月25日から治療中  
 「普段の生活ができない焦りや、先の不安もあった。今までできなかった庭の草むしりができるようになったことが嬉しい。つまり回数もだいぶ減りました」



## 【症例2】

60代 女性 両第1趾巻き爪：2020年4月30日から治療中  
 「靴を履いた時や体重を乗かけた時、ズキッと痛むことがあったけど、ツメフラ着けてから痛みは消えました。生活に支障はありません」



## 【結果】

|          | NRSスケール疼痛レベル変化 |         |
|----------|----------------|---------|
|          | ツメフラ装着前        | ツメフラ装着後 |
| 症例1 右第1趾 | 9              | 0       |
| 左第1趾     | 8              | 0       |
| 症例2 右第1趾 | 5              | 0       |
| 左第1趾     | 3              | 0       |

| ツメフラ装着中 全12名(16趾) 疼痛レベル変化 |         |         |
|---------------------------|---------|---------|
|                           | ツメフラ装着前 | ツメフラ装着後 |
| 平均±標準偏差                   | 5.6±2.2 | 0.1±0.2 |

## 【考察】

- ・ツメフラ治療による介入の中で、陥入爪・巻き爪に起因した疼痛が、活動量の低下や転倒のリスクを引き起こしていることが患者の言動から示唆された。疼痛を取り除き、それらのリスクを回避することは、患者のADLやQOLの維持に繋がる。
- ・今回の報告から、日々の下肢観察と必要に応じた介入によって、陥入爪・巻き爪に起因する創傷の予防が図れると考える。

## 【まとめ】

- ・今回報告した2名のツメフラ治療では、陥入爪・巻き爪による大幅な疼痛改善が認められた。
- ・当院では、週3回の透析ごとに患者の下肢を観察する他、月1回のフットチェックを施行し、必要に応じた治療を行っている。今後も早期介入によって足病変の重症化予防を図っていく。

## 【今後の展望】

- ・この報告を機に、毎月行うツメフラ診察で継続して疼痛レベルの確認を行い、データの集積を行っていく。その他、包括的QOL尺度を使用しての評価も視野に入れている。
- ・自分の学びの経験を院内の看護師と共有できるよう、フットケアの教育を行っていききたい。